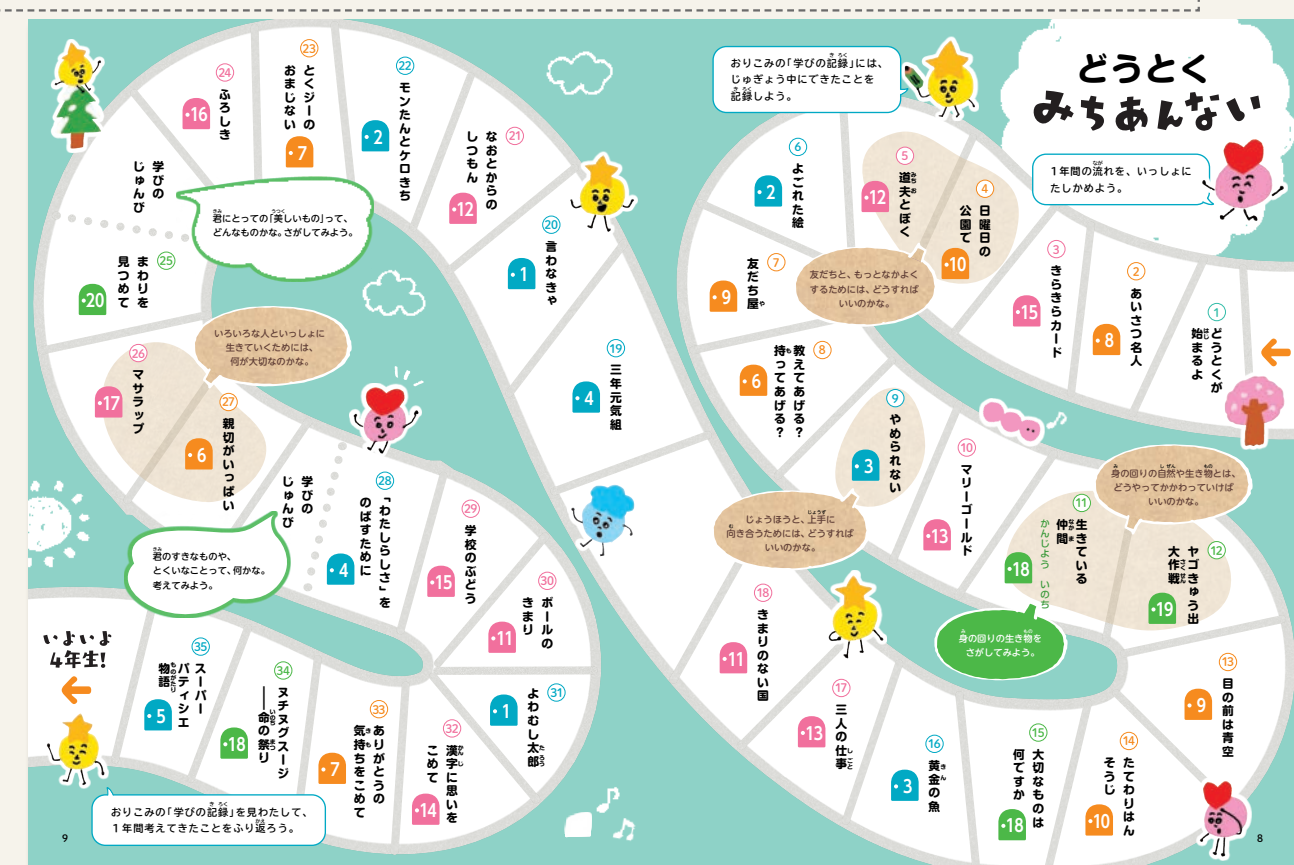
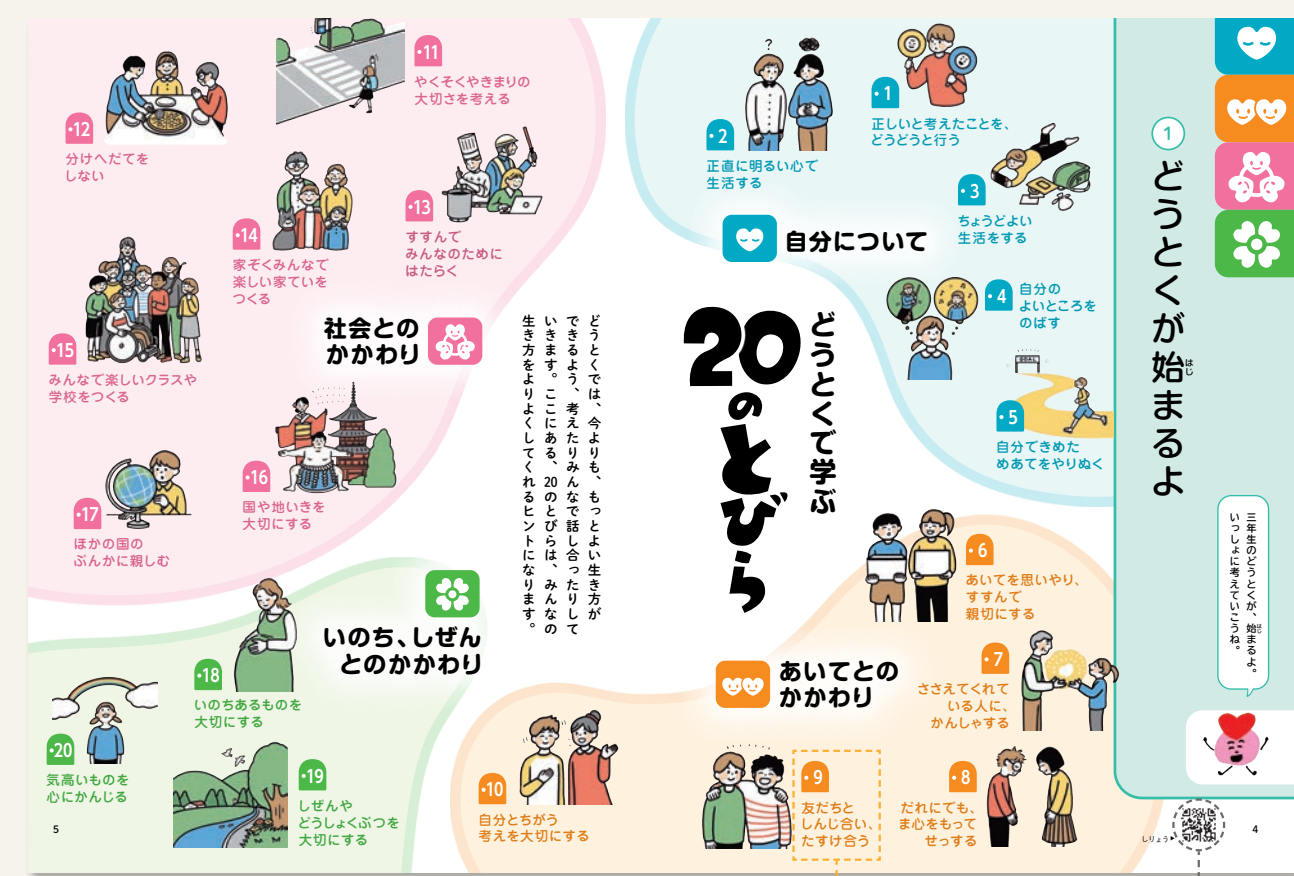


「道徳って、何を学ぶ教科なの?」に答えるため、
わかりやすい言葉とイラストで、その学年で考える内容項目を示しました。
1年間の学びを楽しく確かめ、見通しをもてるようなページです。



3年「7 友だち屋」p.34-43



3年「1 どうとくが始まるよ」p.4-9

何を学ぶのかを押さえる

児童の学びたいという意欲を高め、
これからの学習を楽しむにできるように。
道徳の学びの全体像、そして
一年間の学びの全体像を見通すことができます。

「学び方」を学ぶ

児童がより主体的に道徳の学びに取り組めるよう、教材への向き合い方のヒントを示しました。

道徳の「入門期」

「道徳」という言葉に初めて出会う1年生が、道徳ではどんなことを学ぶのかを視覚的にイメージできるよう工夫しました。第1～5教材を入門期とし、自分の考えを表すことや、友達の話聞くことに意識を向けられるようにしました。



1年「1 がっこう だいすき」p.6-7

1年「どうとくが はじまるよ」p.4-5

特設ページにまとめた話し合いのポイントを、第1～5教材で一つずつ確かめていきます。

三つの対話を意識する

第2教材では、教材に沿って、道徳の学び方を押さえていきます。「教材」との対話、「自分」との対話、「友達」との対話を意識することで、教材に描かれた出来事を自分のこととして捉えられるようにしました。

② あいさつ名人

ぼくは、「あいさつ名人」とよばれている。「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」。ほんのちよっと、勇気がいるけど、ほんのちよっと、むねがどきどきするけど、ぼくは、いつも大きな声であいさつをする。同じクラスのせいやくくんは、「とおるくんはいいな。大きな声であいさつができて、ぼくは、あいさつが苦手なんだ。」

と。言う。

そう言われれば、せいやくくんは、はるかしがり屋で声も小さかったな。ある朝、せいやくんと学校へ行くところ、近所のおばあちゃんに会った。

「おはようございます。」

と、あいさつした。おばあちゃんは、「はい、おはようございます。」と、返事をしてくれた。でも、せいやくくんは、おばあちゃんをだまて見ていた。それからゆっくりと、「足、だいじょうぶですか。」と、声をかけた。

「まあ、ありがとう。ちよっとつまずいてね。心配してく



どうとくの学び方

いつも自分と聞いかけながら考えよう。

読むときには

- いなと思ふところは？
- どうしてかな、問題だなと思ふところは？
- 自分とくらべて気がつくことは？

考えたいことに気づく

大きな声であいさつができてよかった。いいな。

せいやくくんは、おばあちゃんをだまて見ていたとき、考えていたかな。

考えたいことに気づく

自分だったら、こんなとき、何を言えるかな。

よりよい生き方について考える

話し合ったり、書いたりするときには

- 自分は、これまで、どうだったかな。
- 友だちと自分の考えは、どんなところが同じで、どんなところがちがうのかな。
- 今日考えたことは、かんとんにできるかな。
- 自分は、これから、どうしたいかな。

友達との対話

自分との対話

教材との対話

題材を、バランスよく

六年間で、児童が、広い視野でさまざまな話題に触れられるよう、題材・形式共に多種多様な教材を掲載しています。

親しまれている定番教材

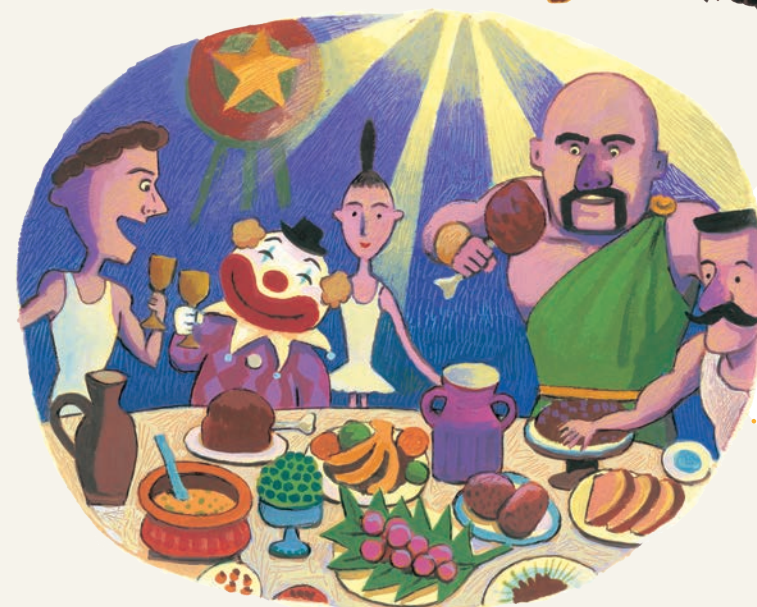
広く実践が積み重ねられてきた定番教材を、新版教科書でも多数取り上げました。



1年
「27 はしのうえのおおかみ」
P・94・99



3年
「7 友だち屋」
P・34・43



5年
「26 ブランコ乗りとピエロ」
P・133・139

\\ 定番教材が、こんなに! //

1年	8 かぼちゃの つる / 10 きんの おの / 17 ぼんたと かんた / 21 おふろそうじ / 22 二わの ことり / 23 ひしゃくぼし / 27 はしの うえの おおかみ
2年	15 およげないりすさん / 16 お月さまとコロ / 17 黄色いベンチ / 23 くりの み
3年	7 友だち屋 / 16 黄金の魚 / 24 ふろしき / 31 よわむし太郎 / 34 ヌチヌグスージ—— 命の祭り
4年	2 目覚まし時計 / 5「正直」五十円分 / 6 絵はがきと切手 / 22 雨のバスでいりゅう所で / 23 泣いた赤おに / 28 花さき山 / 29 梨の実—— アンリ = ファーブル / 33 ブラッドレーのせい求書
5年	4 流行おくれ / 11 一ふみ十年 / 16 友のしょうぞう画 / 26 ブランコ乗りとピエロ / 28 うばわれた自由 / 30 お客さま
6年	9 ロレンゾの友達 / 15 手品師 / 22 最後のおくり物 / 25 小川笠船

\\ 定番教材をブラッシュアップ //

教材に描かれている道徳的価値を損なわず、かつ、児童の読みの負担を軽減できるよう、文章を見直しています。

原典

（正子さんは、ほかの人にも、この大きすぎる絵葉書を二〇円で送るかもしれない。）と考えたひろ子は、手紙のさいごに、百円切手をはらなければならぬことを書き添えてあげようと思いました。（正子さん、きっとわかってくれる。）
そう思うと、急に気持ちがすっきりして、ひろ子は手紙を書き始めました。

ヒントとなりすぎる部分を削除したり、表現を変えたりして、「正解」を求めるような授業にならないよう工夫しました。



考えているうちに、正子とすこしてきたこれまでのことが、なつかしく思い出されました。「やっぱり知らせよう。正子さんなら、きっと分かってくれる。」
そうつぶやくと、ひろ子は手紙を書き始めました。

